

守ろう。里山の自然と動植物



緑豊かな自然が残る八千代市。島田谷津とほたるの里は、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選ばれています。

谷津・里山は、人が自然と寄り添いながら作り上げてきたものです。荒廃を食い止め、そこに生息する動植物を守るためには、継続して人の手を入れていく必要があります。

【お問い合わせは環境政策室☎483-1151(代表)へ】

谷津・里山をつくり上げ守ってきた人々の生活との密接なつながり

市内に残る谷津・里山は、山林、水田、畑、沼、池、川などで形づくられています。原生的な自然とは違い、人々の生活と密接なつながりをもつことで、長い時間をかけて作り上げられてきたものです。以前は、薪や炭にするために木を伐採し、肥料用の落ち葉を集めることが日常的に行われ、活用されてきました。

しかし、都市化や所有者の高齢化が進んだ現在は、人の手が入らなくなることで、落ちた枝木や、伸びた下草、放置された倒木などで荒廃が進んでしまいます。暗くなった林の中では、希少な植物の生育が難しく、数が減少してしまいます。また、人が立ち入らなくなることでイノシシなどがすみつき、農作物に被害をもたらしてしまうこともあります。

下草刈りや、樹木の間伐などを進めていくことは、希少な植物の保護につながります。適度な密度に保ち、光を取りこむことで、地球温暖

化の原因となる二酸化炭素の吸収や都市部のヒートアイランド現象の緩和にもなります。

里山楽校でボランティアを育成して整備活動に取り組んでいます

市では平成22年度に谷津・里山保全計画を策定しました。その取り組みのひとつとして、整備活動を行うボランティア人材育成講座「里山楽校」があります。里山に関する知識を深めるばかりでなく、活動に必要なチェーンソーの使い方などを実践的に学ぶことができます。

今では卒業生が6つの里山活動団体を結成し、市内8か所で定期的に活動を続けています。

団体ごとに特色はありますが、里山整備のほか、活動で出た木材を活用したシイタケ栽培を実施するなど里山ならではの活動も楽しみのひとつです。また、団体によっては、自然観察会や野草観察会、小・中学生を対象とした里山体験なども実施しています。

市内に残る自然の保全や谷津・里山に興味がある人、活動できる人を募集しています。まずは、

里山楽校に参加してみてください。

【里山楽校の開校日】18歳以上対象

▶日時 ①11/7(木)、②11/9(土)・10(日)・16(土)・17(日)のいずれか、③11/30(土)、④12/7(土)、⑤2年1/16(木)、いずれも午前10時～午後3時。3回以上参加で修了証交付 ▶場所 市役所及び市内の里山など ▶参加費 1,500円(保険代など) ▶申し込み 電話、ファクス、郵送または直接環境政策室☎483-1151☎484-8824へ。氏名・住所・電話番号・生年月日・性別をお知らせください

EVENT おいでよ！ちばの里山キャンペーン

県では、里山活動を活性化させる支援の一環として、団体によって整備された里山を紅葉の時期に合わせて公開します。竹クラフトやシイタケ駒うちを予定。参加無料 ▶日時(場所) 11/9(土)・10(日):熱田の森、11/16(土)・17(日):むつみの森、いずれも午前10時～午後3時。千葉市、船橋市、市原市でも開催予定。詳しくは、NPO法人ちば里山センターのホームページをご覧ください。

2019自然環境調査の中間報告

1月から12月までを調査期間として、市民ボランティアの協力のもと市内の動植物の状況を調べる自然環境調査を行っています。

中間報告の結果、過去の市の調査記録になかったニホンカワトンボやウチワゴケが確認されました。一方で、市内に生息している希少な生きものであるニホンアカガエルが産卵場所としているような、湿地や水田などが少なくなっていることもわかりました。

河川の上流部や谷津の水路などに暮らすトンボです。今回の調査で、3匹が確認されたことから、市内に定着している可能性があります。



ニホンカワトンボ

市内の保存樹木の幹に着生しているウチワゴケを初めて確認しました。県内では数が減少し、県の保護上重要な野生生物とされています。



ウチワゴケ(シダ植物)

広告